D09

動画カルテの開発・作成を中心とした防災活動に対する考察
Doing Disaster Risk Management through the Invention and Production of Multi-screen Movie

○孫英英・矢守克也・近藤誠司
○Yingying SUN, Katsuya YAMORI, Seiji KONDO

To promote disaster consciousness and improve tsunami evacuation rates in Okitsu community, Kochi prefecture, we suggest a new approach to evacuation drills dubbed the single-person drill. This drill changes a community practice into an individual activity that we hope will make more residents involved in disaster risk management, and ultimately contribute to their successful tsunami evacuation. The single-person drill will not only point out problems and analyze past achievements, but will serve to point toward solutions in disaster risk management in the community. Moreover, with the cooperation of Okitsu elementary school, we conduct the single-person drill with pupils by shooting the whole process and then creating a video record to analyze disaster management issues of each resident as well as to enhance disaster education. With these video records, the recovery of “alterity”, that is, realizing the self-ability and understanding the importance to do disaster risk management, especially for “others”, rather than for one self could be expected.

１．動画カルテ

本研究では、南海トラフの巨大地震・津波による被害を軽減し、住民一人ひとりに寄り添って、個別具体的に防災に対する意識や備え、そして防災の課題を一つひとつ洗い出し、「あんたが死んだら、迷惑ぜよ」という意識を持たせることで、地域全体の知恵を活かすアプローチを提案する。それが、「個別訓練タイムトライアル」と呼ばれる津波避難訓練である。

「個別訓練タイムトライアル」とは、一人ひとり、個別に（または、家族単位で）行う津波避難訓練である。自分がふだんいる場所（たとえば、自宅や職場）から最寄りの避難場所まで、所要時間を計りながら実際に逃げてみる。学校での防災学習と組み合わせる場合は、その様子を子どもたちがビデオ撮影し、その結果を分析して、子どもたちからのメッセージ（避難の改善点）を訓練参加者に届ける。さらに、避難の様子を、津波浸水シミュレーションと合成してコンピュータ・グラフィックスで確認することも可能である。以上の結果を、「動画カルテ」と呼ぶ映像にまとめる。そして、「動画カルテ」を見ながら、避難時に手伝いが必要な住民（杖、シルバーカーなどを利用する人）について、手助けの方法（周囲の協力、クルマの利用など）を考えたり、たとえば、多くの住民が避難途中で利用する橋脚の補強など、新たなハード施設の整備を計画したりする。

以上から明らかなように、「個別訓練タイムトライアル」は、津波避難の取り組みの水準を、従来の地域レベル（たとえば、人口が 1000 人だからそれ以上収容可能な避難場所を整備する）から、個人レベルへと移行させる役割をもっている。これによって、個人単位で、「個別具体的に」自らの避難行動について検討することが可能となり、住民の津波避難に対する意識をこれまで以上に高め、実際の避難行動へとつながることが期待される。

２．理論的考察

Gergen.K(1999)がイデオロギー批判の見直しで提起した「大文字の真理」（Truth）と「小文字の真理」（truth）の見解に基づいて「個別訓練タイムトライアル」を解釈すれば、住民一人ひとりの津波防災の事情や課題について検証し、解決策を練ることは、実務の現場で行われる地域全体に着目したハード施設の整備と、同じ効果をもっている。つまり、「住民を守る」、この終極の目的に集約できる。さらに、個別的でローカル（小文字）な方策による防災の実践は、「他者性の回復」（大澤、1990；宮本、2012）の効果を潜在していることが考えられ、今後の研究課題として整理、考察する予定である。